

思いやりと優しさのある、良質で安全な医療を提供いたします。

HOKUTO TIMES

社会医療法人北斗会 大洲中央病院広報誌「ホクトタイムス」

No.

68

2022/1



謹 賀 新 年

本年も大洲中央病院を
どうぞよろしくお願ひします。

社会医療法人北斗会 大洲中央病院 理事長 院長
大久保 啓二



新年明けましておめでとうございます。昨年は、日本のみならず世界中が新型コロナウイルスに翻弄された1年となってしまいました。新型コロナウイルスに対応されてきた医療関係者の方々のご苦労は大変なものがあったと思います。ここに深く感謝の気持ちを捧げたいと思います。現在、日本においては第5波の終息から一息ついているところですが、新しい変異株オミクロン株がどうなるのか、固唾を飲んで見守っているところだと思います。一部には軽症例が多いとの報告もあり、終焉に向けて期待するばかりです。さて、一方で不安なニュースもみられました。日本中が期待している国産ワクチンの開発は、遅れたままのようです。これは、単に開発が遅れただけではなく、基礎となる生命・分子生物学分野の

学術レベルが、欧米に比べ10年以上遅れている問題が表面化したものと思われます。また、接触アプリの度重なる不具合は、IT関連・アプリ開発能力の低下が目立つ事件だったように思われます。そして、最も危惧されることは教育分野です。この2年間、リモート学習の割合が増えることによる教育機会の低下は、ある意味仕方ないところですが、逆境の中、独自に目標を決め努力を続けた人とそうしなかった人の能力差が、非常に拡大しているのではないのでしょうか。そのような中で、社会構造が大きく変わろうとしているのが令和4年です。postコロナ・withコロナの時代として、多くの課題に向き合っていくといけない年になりそうです。

病院としても、これからの変化や課題に取り組み、地域の医療に貢献できるよう努力して参りますので、皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



患者さんやご家族のご心配やお困り事に対して
専門の知識を持った地域医療連携室のスタッフが対応いたします。

Zoom Up!
OozuchuoHospital



【地域医療連携室】

病気や怪我に見舞われて入院される患者さんの中には、治療が終了して退院が可能になっても、何らかの後遺症が残ったり、入院生活に伴う身体機能の低下などにより、退院後の生活が不安になる方がいらっしゃいます。そこで当院では、患者さんのお困り事やご不安への相談を専門に行う地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室には、医療的・社会的・経済的問題に対して専門的に支援を行うために、社会福祉士2名と看護師2名が所属しており、入退院の調整や介護サービス機関との連携、在宅療養や施設入所への支援など様々なサポート業務を行っています。

今号は、地域医療連携室についてご紹介します。

入退院に関する調整

地域医療連携室は、地域の保健・医療・福祉施設などとの連携を推進し、地域の医療の充実・発展に貢献するという目的で、院内・院外連携の確立を目指して活動しています。その一つとして、他の医療機関との転院調整があります。他の医療機関から当院を紹介され転院のご希望があった際には、地域医療連携室が窓口となり医師と該当部署に情報提供を行うと共に、受け入れ可否についての確認や調整を行います。特に当院は、大洲市内で回復期リハビリテーション病棟を有す

る唯一の病院であり、リハビリを希望される患者さんの受け入れ要請が多くあります。また、地域包括ケア病棟も有していることから、自宅に退院するには少し不安がある、あるいは短期間のリハビリ目的で入院を希望される患者さんの受け入れも行っています。一方、当院に入院された患者さんが、かかりつけ病院など他の医療機関へ移りたいというご希望もありますので、その場合は相手先への転院に向けて交渉・調整を行います。

お困り事への相談

突然の入院や長期間の通院を続けていらっしゃる患者さんの中には、様々なお困り事を抱えていらっしゃる方がおられ、金銭面に関するご心配をされることがよくあります。地域医療連携室では、



電話対応

通院や入院費用の準備などのご心配に対して、限度額適用認定証の手続きや障害年金などを紹介したり、必要時は生活保護の手続きなど、経済面での支援を行っています。また、身寄りが無かったり、ご家族が遠方にお住いで金銭管理が不安になってこられた方には、成年後見人制度の紹介や手続きについての支援も行うことが出来ます。

カンファレンスへの参加

院内では、医師やその他の職種が参加して、患者さんの様々な課題に対して検討する多職種カンファレンスが、定期的開催されています。地域医療連携室では、カンファレンスのスケジュール調整を行うと共に、全てのカンファレンスに参加して、新規入院患者さんの治療方針や治療経過を共有しています。また、退院が近い患者さんの課題を共有し、患者さんのご様子や回復状況を確認しながら、退院に向けてご家族やケアマネージャーなどの支援者との連絡や調整を行っています。

退院支援

患者さんは、入院されると「家に帰ったら1人で大丈夫か」「今までどおりの生活が出来るのか」な

ど、退院までに様々なご心配があると思います。地域医療連携室では、退院後の生活に少しでも安心して移行できるよう、必要に応じて介護保険の手続きや身体障害者手帳の交付手続きなどの支援を行うと共に、具体的にどのようなサービスが使えるかなどの紹介を行っています。また、自宅退院が困難な方に対しては、施設入所の案内や手続きの支援も行います。昨今、介護医療院や住宅型有料老人ホームなど様々な形態の施設が増えていきますので、それぞれの施設の特色や、どのような状態の方が入所可能なのか、利用料金はどれくらいになるのかなどを分かりやすく説明しています。また、各施設とは定期的に情報交換を行うと共に、空き状況などを確認して患者さんのご希望に沿えるように準備を行っています。

レスパイト入院の相談

「レスパイト入院」とは、地域で在宅介護・医療を受けられている方やご家族・介護者の休養を目的とした短期の入院形態です。レスパイト(respite)には「一時休止」「息抜き」「休息」という意味があり、ご本人・ご家族が少し休息したいと思われた時や、冠婚葬祭・体調不良など介護者の事情により、一時的に自宅での療養継続が困難に

なった場合にも利用できます。入院が必要となった経緯やご本人の状態、どのくらいの入院期間が必要かなどの情報を頂ければ、担当医師や病棟部長と相談し、受け入れの可否や日程調整を行いますので、地域医療連携室までご連絡下さい。

高次脳機能障害への支援

脳卒中や事故などで脳に障害を受け、複雑な情報処理が困難となり、日常生活や社会生活に支障を来す状態を「高次脳機能障害」と言います。高次脳機能障害は、記憶障害や性格の変化など外見だけでは判断することが難しい後遺症です。愛媛県は、平成20年度から「高次脳機能障害支援普及事業」に取り組んでおり、当院は相談支援協力病院として指定を受けています。地域医療連携室では、高次脳機能障害を後遺された患者さんやご家族の相談窓口となり、医師や関係スタッフへの情報提供や外部の関係機関との連絡・調整を行っています。また、八幡浜保健所との連携の中で、定期的に医療圏域内の支援者に向けた講習会や連絡会などを開催し、同事業の普及・啓発に向けた活動を行っています。

社会情勢が複雑化してきている現代において、

超高齢化や核家族化が急速に進み、療養上の様々な課題を抱えて病院に来られる患者さんが増加しています。それと同時に、対応する行政機関や対応事業所なども少しずつ増え、患者さんやご家族を地域で支えあうネットワークが出来てきました。患者さんは、急な病気で仕事が続けられなくなったかどうか、どのような社会保障制度があるのか、どこに頼ればいいのかなど、様々な心配事や問題を抱えながら療養されています。まずは、患者さんが何を心配なさっているかを早急に把握し、何から解決すべきか、どのような方法や手段があるのか、どこに連絡し誰と連携を図るのが解決に繋がるのかを検討する必要があります。そのためにも、私たちは常に新しい情報を取り入れ、患者さんの立場に立ったきめ細やかな連携がとれるように、スタッフ一同日々努力してまいります。



地域医療連携室窓口

からだに効く
レシピ

Point
骨付き肉を使うことで
うまみがアップします

大洲中央病院栄養科

手羽元のマーマレード煮込み

■材料(2人分)

手羽元	6本
ブロッコリー	1/4房(A)
マーマレードジャム	大さじ1と1/2
ケチャップ	大さじ1と1/2
しょうゆ	大さじ1
砂糖	大さじ1
水	150ml
油	小さじ2
レモン果汁	小さじ2
塩	少々

■作り方

- ①深めのフライパンに油を熱し、手羽元の両面に焼き目を付ける。
- ②手羽元に焼き目が付いたら余分な油をキッチンペーパーで拭き取る。Aを加え蓋をして中火で15分煮込む。手羽元の上下を返してさらに15分煮込む。
- ③蓋を取り、レモン汁を加えて煮汁にとろみがつくまで加熱する。
- ④塩茹でしたブロッコリーとともに皿に盛ると出来上がり。

院内美術館
すぐそばにある絵画
34

『茜色のシャドーボーヴァン』
奥津国道作

澄明で繊細な筆致

今回ご紹介するのは、本館4階スタッフステーション前にある、フランスの風景と女性美をこよなく愛した画家、奥津国道の「茜色のシャドーボーヴァン」。軽快で繊細な筆致の風景画は多くのファンを魅了している。

次号は、レスリー・セイヤー
「ローズインブルーム」をご紹介します。

奥津国道 / 1932年神奈川県生まれ / 1949年宮永岳彦に師事 / 1953年 ユニヴァーサル映画入社 / 1955年平凡出版アートディレクター / 1978年「現代の標榜展」奨励賞受賞

医療安全対策地域連携会議が 開催されました

11月22日に、市立宇和島病院とJCHO宇和島病院から医療安全管理責任者及び担当者の方々が来院され、年に1回の医療安全対策地域連携会議が開催されました。今回の会議のテーマは「患者誤認防止について」でした。まずは、外来、内視鏡センター、回復期リハビリテーション病棟をラウンドして、日々実践している患者誤認防止などの医療安全に関する取り組みや医療機器・医薬品の取扱いなどについて指導して頂き、ラウンド後に意見交換を行いました。当院では、患者誤認防止のために、外来診察室への入室時のフルネームの確認、採血時のフルネーム及び生年月日の確認、同姓患者の明示など様々な対策を行っています。フルネームや生年月日は職員が確認すると共に、患者さんご自身にも名乗って頂いており、患者さんのご協力が不可欠です。今後も、医療安全に対する意識を高め、患者さんが安心して療養出来る環境作りに努めてまいりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



医療安全管理者 蔵田 麻由巳

愛大病院感染制御部による 院内ラウンドが行われました

11月18日に、愛媛大学医学部附属病院感染制御部と当院のICT(感染制御チーム)による院内合同ラウンドが行われました。ICTによる院内ラウンドは、院内で感染症が拡大しないように、現在行っている感染防止対策が適切かを確認し改善することを目的として行われています。当院でも、毎週ICTが各部署をラウンドし、感染防止対策が適切に実施されているか確認していますが、年一回愛媛大学医学部附属病院の感染制御部に来院して頂き、外部評価を受けています。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行が続いているため、今回も発熱患者の外来での対応状況や、病棟での感染防止対策では、個人防護具の使用法、消毒薬の管理方法などを重点的に指導して頂きました。基本的な対策は実施できているとの評価を頂きましたが、今回のラウンドの指摘事項を基に、更なる改善を行い、感染防止対策の強化に取り組んでまいります。



本館5階病棟主任 二宮 ひろみ

高齢者看護学実習生を 受け入れました。

10月21日～31日と11月11日～21日の各8日間、人間環境大学松山看護学部の学生5名ずつを受け入れ、高齢者看護学実習を行いました。この実習の大きな目的は、老年期を生きる人々とその家族を理解すると共に、高齢者のニーズや生活に必要な看護支援を評価して、高齢者の生活の質を高める看護実践能力を養うことです。悩みながらも一生懸命に患者さんと向き合い、ひたむきに実習に取り組む学生の姿を見て、私たち看護師も初心にかえり学びを得る良い機会となりました。患者さんの中には、学生と話すのを楽しみにされていた方もおられ、実習中はいつもより笑顔や活気が増したように感じました。早く実習を受け入れて下さった患者さんやご家族の方々に、心より感謝を申し上げます。今後も、看護学生と実習を受け入れる当院の双方にとって、実りの多い実習ができるように努力してまいります。

東館3階病棟棟長 高岡 美智代

外来診療医師一覧表

診療科目	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
内科	1診	近藤 賢之	休診日	大久保啓二	大久保啓二	近藤 賢之	大久保啓二
	2診	岡本 傳男		岡本 傳男	井上 明子	岡本 傳男	岡本 傳男
	3診	井上 明子		井上 明子	近藤 賢之	大久保啓二	非常勤
	4診	浅川 建史		清家 愛理	清家 愛理	非常勤	浅川 建史
外科	1診	森岡 徹	休診日	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹	森岡 徹
	2診	満谷 臨		満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨	満谷 臨
整形外科	1診	栗田 英明		栗田 英明	栗田 英明	愛大医師	藤澤 圭史
	2診						栗田 英明
泌尿器科		清水 公治		清水 公治	清水 公治	清水 公治	清水 公治
脳神経外科	1診(新患)	西原 潤		西原 潤	西川 真弘	重川 誠二 末廣 諭 (隔週)	橋本 尚樹(第1) 戸田 茂樹(第2-4)
	2診(再診)	西川 真弘		西川 真弘	西原 潤		西原 潤
形成外科						森 秀樹(第1-3-5) 真田紗代子(第2-4)	

受付時間 午前8時00分～午前11時30分

診療開始時間 午前9時00分～ 担当医師は緊急手術などで変更する場合がありますので、事前にお問い合わせください。(休診になる場合あり)

休診日(1～4月) 救急診療のみ… 1月1日(出)、1月2日(出)、2月11日(金)、4月29日(金)

休診日…火曜、水曜、1月3日(月)、1月10日(月)、3月21日(月)

お見舞い・面会時間 午後1時00分～午後5時30分

(新型コロナウイルス感染予防のため変更になる可能性がありますので、事前にお問い合わせください。)

◎大洲・喜多地区の一週間の救急当番

- 金～日曜日…大洲中央病院
(日は18:00まで)
- 日曜日…市立八幡浜総合病院(18:00～)
- 月曜日…市立大洲病院
- 火曜日…市立大洲病院
- 水曜日…加戸病院(昼)、
喜多医師会病院(夜)
- 木曜日…大洲記念病院(昼)、
市立八幡浜総合病院(夜)

編集後記

明けましておめでとうございます。コロナ禍による自粛生活が続く中、お正月はどのように過ごされましたか？ 私は運動不足解消のため、全身運動ができる3D振動マシンを購入しました。「シェイプアップ・体力アップ」の煽り文句を信じて、日々励んでいますが、おせちの食べ過ぎのせいか、私の体型に大きな変化はないようです。皆さん、運動・睡眠などの生活リズムや食生活を整えて、清々しい心と健康な身体で新しい年をスタートいたしましょう。今年もHOKUTO TIMESをよろしく願っています。

発行/社会医療法人 北斗会 大洲中央病院

編集/広報委員会

寺尾 光司(事務部長・理事) /
京河 雅史(放射線科長) / 竹岡 照枝(看護師長)
道休 由佳里(看護師長) /
木村 優志(リハビリテーション科) /
大西 修平(リハビリテーション科) /
藤岡 真里子(栄養科) / 黒田 都(医事課主任) /
九鬼 宏美(総務課)



社会医療法人 北斗会
大洲中央病院

